

献 辞

本研究施設菊地泰次教授（併任）は、京都大学の定めるところにより、昭和61年3月末日をもって、本学を退官されることとなった。

教授は、昭和28年5月農学部講師になられ、農林経済学科に勤務され、30年6月に助教授に昇任、昭和35年4月以来本研究施設に配置換え、昭和43年4月教授に就任、56年3月まで13年間専任教授として勤務され、その間施設長2回と評議員、農学部長を歴任された。昭和56年4月1日以降は農林経済学教室農業経営学講座担当に転じられたが、引続き本施設の併任教授として最後まで御尽力を頂いた次第である。

顧みると、昭和33年4月本研究施設が官制上発足して以来でも、専任併任合わせて28年の長年月に渡って、特に大槻教授創始の「自計主義京大式農家経済簿」の研究、教育、普及に尽粋され、本研究施設の重要な礎石を置かれたところである。

このたび、教授の御退官にあたりこれを記念して、現在及び元簿研の専任併任教官、ならびに同教授が簿研在職中に親しく御指導を頂き、現在他大学に勤務中の教官各位にも特に寄稿を依頼し、農業簿記研究施設発展のために寄与して頂くこととなった。

よって、ここに教授の本研究施設に対する永年の御業績をたたえ、第18号を記念号として教授に謹呈することとした。

今後ますます御壮健にて、後進の御指導をお願い申上げる次第である。

昭和60年12月

編集者代表 阿 部 亮 耳